

としました。しかし、花菖蒲開花中も公園の閉鎖は考えていませんので、花菖蒲の鑑賞等は可能となっております。来場者には3密を避け、せきエチケットを徹底してもらうことを目的に善行橋、関場橋等に警備員を配備し、感染拡大防止の注意喚起をするほか、公園内での飲食を伴う集まり等を控えてもらうよう、お願いしていきます。

また、6月に予定していたインディペンデンス市からの学生親善訪問団の受け入れおよび8月に予定していた同市への親善訪問派遣団の派遣、地域の戦争・平和の学習および広島派遣事業は残念ながら中止となりました。

社会教育関係の対応としては、白州山の家は6月30日まで休館し、7月25日より予定していた白州一泊キャンプは今年度中止となりました。学校施設コミュニティ開放はスポーツ開放、教室開放ともに6月30日まで中止、土曜開放(土曜講座)は第2学期より開催となりました。その他、青少年健全育成事業関係では、8月20日、22日に新潟県柏崎市にて開催を予定していた「なぎさ体験塾」は、夏休みを活用し授業日を設ける可能性があること等を踏まえ、今年度は中止となりました。また、青少年委員主催で実施している「輝け！東村山っ子育成塾」は、5月24日から年8回開催予定でしたが、体験活動を縮小し、9月から実施します。

経営・政策分野

第5次総合計画等の策定、第5次行財政改革大綱の策定に向けた進捗と取り組み

第5次総合計画については6月定例会を目前に基本構想についての議案提出に向け策

定を進めてきましたが、社会経済への甚大な影響に鑑み、社会状況の変化とともに感染拡大防止と必要となる社会経済活動や教育文化活動等と両立を図るために医療、教育、経済等あらゆる面での施策について新たな課題を認識しながら、再度基本構想案や基本計画の素案に盛り込む必要があるとの認識に至り、審議いただける状況になるまで議案の提出を延ばすこととしました。

行財政改革大綱の策定についても2月の行財政改革審議会において、今後10年間の基本理念の案を審議いただき、5月を目前に答申をいただく予定としましたが、現状の状況を踏まえた社会背景の変化や新たな取り組みの方向性について改めて視点を整理する必要があると考えています。特に市民サービスの提供の在り方、市職員の働き方、業務の進め方等を抜本的に変える必要がある、それらを大きなポイントとして盛り込んでいかなければならないものと認識しています。

ICT環境の整備

感染症が猛威を振るう中、多くの企業でウェブ会議用ソフトウェア等を活用したりリモート型のワークスタイルが導入され、働き方に大きな変革が起こりつつあり、第二波の感染拡大への対策等を見据え、新たなワークスタイルに対応したICT環境を早急に整備していかねばならないと考えています。

テレワーク専用PCやウェブ会議システム、セキュリティ対策を可及的速やかに導入し、3密の状態を避けつつ、可能な限り生産性を低下させずに業務を継続できる体制を整え、災害時等におけるレジ

リエンス強化や働き方改革のさらなる推進につなげます。

地域創生分野

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

感染拡大の影響のため延期された東京2020オリンピック競技大会の聖火リレーは延期日程に合わせた新たな日程が定められることになっています。当市では、聖火リレーとして志村けんさんに走っていただく予定でしたが、残念ながら3月29日にご逝去されました。心より哀悼の誠を捧げ、ご冥福をお祈りします。東村山市民をはじめ全国の皆さんに笑顔や元気を届けていたたたかたかった志村けんさんの東村山への想いや多くの人々を笑顔にしたいというお気持ちを受け継ぐとともに、志村けんさんが聖火リレーとして走ることを心待ちにしていた多くの方々思いに沿えるような、笑顔と元気を届けるような、笑火リレーにしたいと考えています。

環境・安全分野

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応

感染症への対応として、避難所の過密化を防止するため、従来の風水害時における市の避難所のほか、スポーツセンターおよびサンバルネの2か所を臨時の避難所として追加で開設し、避難者の分散化を図ることとします。

避難所内ではマスクの着用義務、避難された世帯につき約16㎡のスペースの確保に努めること、当面の間、ベットの同伴避難を断ること、せきエチケットや手洗い等基本的な感染症対策の徹底等ルールを設定しました。震災時における感染症対策

についても避難所運営連絡会の皆さんと協議しながら検討を進めます。

東村山市洪水ハザードマップの更新

市では、5月1日に洪水ハザードマップを更新しました。これは令和元年度12月に都において、柳瀬川、空堀川流域等の浸水予想区域図が想定しうる最大規模の降雨による浸水想定に拡充・更新されたことを契機に、浸水想定の情報を入れ込むことと併せて、市内の小・中学校11校を「自主避難所兼避難所」として開放するなどの新たな風水害対策を周知しました。

教育分野

GIGAスクール構想

GIGAスクール構想は、学校における高速大容量ネットワーク環境を整備し、児童・生徒1人1台の端末を配備することで、多様な子どもたち一人一人に応じて個別最適化された教育ができる環境を、学校においてハード・ソフト両面で構築するものです。

今年度から学校のネットワーク環境を整備し、段階的に児童・生徒に端末を配備することを柱にGIGAスクール構想の具現化に向け事業をスタートしました。

また、GIGAスクール構想におけるハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休校等の緊急時においても、ICTの活用によりすべての子どもたちに豊かな学びを保障できる環境を目指します。今後数年間で端末を配備する計画を前倒し、今年度中に1人1台の端末配備を実現できるように取り組みます。

「ごみ排出量」および「リサイクル率」が全国で第10位以内となりました

問ごみ減量推進課

東村山市が1人1日当たりの「ごみ排出量」の少なさで全国第8位、「リサイクル率」の高さが全国第6位と、昨年に引き続き全国での順位が10位以内となりました。

これは、環境省が全国の市区町村および特別地方公共団体に対して実施した「一般廃棄物処理事業実態調査(平成30年度)」(人口10万人以上50万人未満の全国市町村の部)の結果で、市民の皆さんのごみ減量への取り組みやリサイクル活動への推進が実を結んだものです。ご協力ありがとうございました。

今後も「東村山市一般廃棄物処理基本計画」に定められた基本理念である「低炭素や効率性に配慮した循環型社会の実現」に向け、さらなる事業推進を図っていきます。引き続きご理解、ご協力をお願いします。

	ごみ排出量/人日 (第8位)	リサイクル率 (第6位)
東村山市	683.1g	36.3%
全国平均	918.0g	19.9%



家庭でできる減量およびリサイクル方法

1. 古紙の出し方

紙類は資源として再生されますので、月2回の古紙回収や地域の集団資源回収を積極的にご利用ください。

古紙として出せるもの=新聞紙、ダンボール、雑誌・書籍、紙パック(牛乳パック類)、雑紙(紙箱・包装紙・はがき・ボール紙、ポスター等)

2. 生ごみの水切り

生ごみの約80%は水分です。水切りをすることで重量を約10%減量し、臭いも抑えられます。

最初から濡らさない=野菜等は使えない部分を洗う前に切り落とす。

乾かす=水気のある生ごみは三角コーナー等で乾かす。

絞る=水切りネット等で最後にひと絞りする。

3. 買物での工夫

マイバックを持参する、詰め替え商品を選ぶなど、工夫をしましょう。

